

展覧会

シネマブックの秘かな愉しみ

2015年4月14日(火)–8月2日(日)

*月曜日、5月26日(火)–28日(木)は休室です

東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室



《俳優本》たち

映画書の知・楽・美

★概要

120年になろうとする映画の歴史—その誕生の瞬間から、書物は映画とともにありました。

映画はそれまでの諸芸術やテクノロジーを貪欲に吸収し、あらゆる人々に開かれた大衆性を持ったことで、20世紀以降の文化をリードするとともに数えきれないほどの言葉と書物を生み出しました。《映画》と《映画の本》は、離れられない運命的な仲といえるでしょう。

国内最大の映画専門図書室を擁するフィルムセンターは、この度こうした映画の書物をめぐる展覧会を開催いたします。映画史を知るための基本文献、明治・大正期の貴重書や無声映画時代の“映画文庫”、豪華な大型本・愛らしい豆本、子ども向けの本や優れたデザインの書籍、映画という職業をめぐる本まで、映画史と寄り添って脈々と生み出され、さまざまな魅力を放つ日本の映画書を一堂に集めて展示し、併せて、映画の本を収集している日本各地の映画図書館をご紹介します。

多彩なゲストを迎えた連続講座も交えて、書物という切り口から、映画という豊穡な知の体系に触れられる絶好の機会となるでしょう。

★本展のみどころ

第1章 映画書のABC

無声映画時代から、活動写真は新しい知と芸術の体系として探究の対象となってきました。日本映画文献史研究家本地陽彦氏が所蔵する明治・大正期の貴重書のほか、日本の映画史を変えた一冊や、映画史を学ぶ際の指針となってきた名著を紹介します。

第2章 映画書は美しい

動くものである映画を、一冊の本にすることは容易ではありません。大衆性と美との調和など、映画書に与えられる課題にはきりがありません。映画に造詣の深いデザイナー和田誠や鈴木一誌の仕事をはじめ、数々の装丁家・ブックデザイナーが取り組んできた映画書を集めました。

第3章 映画をめぐる仕事

映画作りに携わる人々が著した本も、映画書の中で魅力にあふれる分野です。連綿と出版されてきた俳優本、様々な職能の映画スタッフを取り上げたインタビュー本のほか、活動写真弁士や映画検閲官など映画史の中で独自の役割を担った人々の本にも焦点を当てます。

第4章 映画書アラカルト

ユーモラスな本、意表を衝いた企画の本、こどもと映画をつなぐ本、無声映画時代のストーリーブック、全国各地の映画史を語る本など、映画史 120 年の中で出現した特徴的な国内の図書を、多彩な切り口で紹介します。



対訳シナリオ「モーション・ピクチャー・ライブラリー」(1946-1949年) 表紙イラスト:野口久光

★関連イベント

・シネマブック連続講座 映画書の過去・現在・未来を知る！

4月18日(土) 若手映画書編集者対談
樽本周馬(国書刊行会)×佐野亨(編集者・ライター)

5月16日(土) 映画古書の深淵へ
中山信行(稲垣書店店主)×高崎俊夫(書籍編集者・映画批評家)

6月13日(土) 映画書のデザインをめぐって
鈴木一誌(ブックデザイナー)

7月11日(土) 日本映画史の稀覯書をめぐって—出品文献解説
本地陽彦(日本映画史・日本映画文献史研究家)

8月1日(土) 映画本渡世—編集者人生45年
山根貞男(映画評論家)

・学生向け フィルムセンター図書室見学会

映画のすべてを学べるシネマブックの宝庫！

研究員・司書の解説つきで、日頃は見られないフィルムセンター
図書室の書庫をのぞいてみませんか？

7月31日(金)、8月1日(土) 両日とも11:30～(40分程度)

* 申請者は中学校以上の学生と、学校の教員に限ります。

参加は申込制です(Eメールのみ)

7月16日(木)10:00より受付開始



cinemabook@momat.go.jp

メールにて下記①～⑤の必要事項をご記入の上、「フィルムセンター図書室見学係」までお申込みください。

① 希望日 ②参加者の名前 ③学生の場合は学年、教員の場合は勤務先

④④メールアドレス⑤電話番号(緊急時連絡用)

標題は「図書室見学希望」としてください。受付票をメールにて返信いたします。締切は実施日の一週間前(必着)です。

各回、定員(20名)に達し次第しめきります。

展覧会名	シネマブックの秘かな愉しみ 英題:The Discreet Charm of Film Books
主催	東京国立近代美術館フィルムセンター
会期	2015年4月14日(火)－8月2日(日)
休室日	月曜日、5月26日(火)－28日(木)
開室時間	午前11時－午後6時30分(入室は午後6時まで)
会場	東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室
アクセス	東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分 都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分 東京メトロ有楽町線銀座一丁目下車、出口7より徒歩5分 JR 東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分
料金	一般210(100)円／大学生・シニア70(40)円／高校生以下無料 * 料金は常設の「NFCコレクションでみる 日本映画の歴史」の入場料を含みます。 * ()内は20名以上の団体料金です。 * 大ホールで企画上映をご覧になった方は当日に限り半券のご提示により団体料金が適用されます。
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル)
HP	http://www.momat.go.jp/FC/filmbooks/index.html
イベント	・シネマブック連続講座 映画書の現在・過去・未来を知る！ ・学生向け フィルムセンター図書室見学会 ※詳細は関連イベントのページをご覧ください。

【お問合せ】

東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室 広報担当

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp

※記事掲載の際は、TEL:03-5777-8600(ハローダイヤル)をご使用ください

■広報用画像一覧



A



B



C



D



E



F



G



H



I



J



K



L

■FAX 送付先：東京国立近代美術館フィルムセンター 広報担当 03-3561-0830■

広報用画像&読者プレゼント招待券申込書 「シネマブックの秘かな愉しみ」

お名前： _____ ご所属・媒体名： _____

出版物・放送番組名： _____

発行・放送予定日（日時）： _____ 年 _____ 月 _____ 日 _____ : _____ ~ _____ : _____

TEL： _____ FAX： _____

メールアドレス： _____

*貸出を希望されるデータの口にチェックをつけてください

	A	田中純一郎「日本映画発達史」（1957-1968年）全4巻版 原弘装丁
	B	佐藤忠男「日本映画史」（1995年）全4巻 平野甲賀装丁
	C	山本武夫装丁 高田浩吉「冬鶴春鶴」（1957年）
	D	林静一装丁 山根貞男「遊侠一匹 加藤泰の世界」（1970年）
	E	和田誠装丁 戸田奈津子「字幕の中に人生」（1994年）
	F	鈴木一誌装丁 滝沢一・山根貞男編「映画監督中川信夫」（1987年）
	G	徳川夢声「くらがり二十年」（1934年）
	H	成田三樹夫「鯨の目 成田三樹夫遺稿句集」（1991年）
	I	夏川静江「私のスタジオ生活」第4巻（1933年）
	J	横尾忠則編「憂魂 高倉健」（2009年復刻版）
	K	青木緑園「チャプリン自叙傳 僕がチャプリンです」（1917年）
	L	映画物語本 「拳骨」「怪火」「名金」「犠牲」（1916年）

画像データ貸出希望日時	_____ 月 _____ 日 _____ 時頃までに希望
読者プレゼント招待券	_____ 組 _____ 名（合計 _____ 枚） 希望します

プレス・イメージ貸出条件

1. 画像は、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。2. データを第三者に渡すことは禁じます。使用后、画像データは消去してください。3. 展覧会の名称、期間、会場は、適切な場所、大きさを明示していただくようお願いいたします。4. 作品画像は全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字を重ねることはできません。5. 画像を掲載される際には、イメージ貸出時に添付するクレジットをご記載ください。6. 掲載紙（誌）は、1部、事業推進室宛にご寄贈ください。webサイトの場合は、掲載時にお知らせください。*画像データ（JPEG）にてお貸出いたします。その際、一緒にお送りするキャプションもご確認ください。*掲載前に、校正紙をお送りください。お送りいただけない場合、掲載内容についての責任は当方では負いかねます。

【お問合せ】

東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室 広報担当

〒104-0031 東京都中央区京橋 3-7-6 TEL:03-3561-0823 FAX:03-3561-0830 nfc-pr@momat.go.jp

※記事掲載の際は、TEL:03-5777-8600（ハローダイヤル）をご使用ください